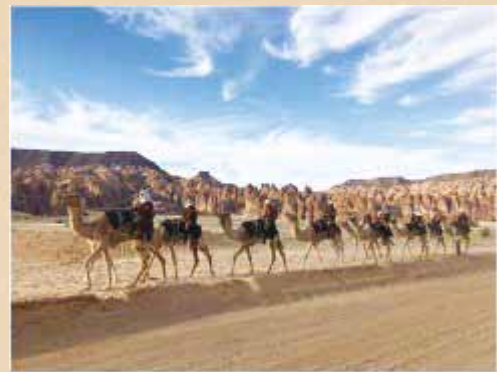


## 演奏旅行

ある年のお正月、サウジアラビアのタンドラの冬、というフェスティバルの一貫でオーケストラが招待されていたのですが、空港での厳しい審査を終え、バスでホールに着くと、そこはなんと砂漠のど真ん中。「ホールはどこ、？」とバスの中からみんなで首を傾げる不思議な光景。説明を受けて目を凝らして見ると、砂漠のど真ん中に全面鏡張りの建物があり、そこが新しくできたホールとのこと。その時にはまだ完成していない部分もあり、まだ工事車両があるような状態でしたが、その周りには砂と岩と空しかないので、近くに行っても、周りと一体化して見えにくいくらいの見事なデザインでした。

(写真参照、わかりますでしょうか？よくよく見てくださいね)



そしてそこから砂漠を歩いて数分のところに、ずらりとプレハブのような箱が並んでいました。冬であっても日中は想像通りの乾燥具合と灼熱、しかし夜になるとさすがに寒く、暖房をつけるとガタガタというものすごい轟音と共に部屋ごと揺れるようなお部屋でした。翌日、リハーサルの時間になってもなんだか団員が少ない、聞けば、同僚の中でガストロ（フランスで有名な胃腸炎）が大流行しているらしいのです。どうやら危ないと言われていた水道水を飲んだようです。薬を飲んで本番には間に合っていました、ドキドキしてしまいました。かく言う私は、警戒心が強いので、歯を磨くにもペットボトルのお水を使っていたので無事でしたが、こんなこともあるのだなあ経験になりました。

また、他にも、大きな遠征としては、日本やアメリカ、ヨーロッパツアーなどもあります。先週、スイスのモントルーにて公演がありました。今回は、かの有名なチャイコフスキーがヴァイオリン協奏曲を作曲した場所から数百メートル、ストラヴィンスキーが春の祭典を作曲した場所もすぐ近く、というところに後に建てられたホールで演奏し、こんな風に、昔の大作曲家たちが私の大好きな作品たちを創作した国や地域に行き、現地の空気を肌で感じられるのもこの仕事の楽しみのひとつです。

ちなみに、スイスのレストランでお水を頼むとなんと9スイスフラン（日本円にすると1400円）。その後、モロッコに行く機会があったのですが、こちらレストランにて、お水は10ディルハム（130円）、メインディッシュにいただくタジン鍋が25ディルハム（340円）。物価も文化も人々も様々、非常に興味深いです。

来月にはコルマール、アムステルダム、夏休み明けにはブカレスト公演が待ち受けています。次の日本公演は2026年の予定です。